

ほのか診察室

HONOKA Consultation room

シリーズ

第90話

胃・十二指腸潰瘍

じゅうにしちようかいよう



市民病院
総合診療科医長

中村 一平

監修



粘膜細胞を保護する物質（プロスタグランジン類）を出して、胃酸から胃を守っているからです。しかし、これら胃粘膜に対し攻撃する因子（胃酸など）と、それを防ぐ因子（粘液など）、この二つのバランスが崩れることで胃や十二指腸の粘膜に傷が付き、粘膜の下まで深く傷害される病気を胃潰瘍・十二指腸潰瘍と言います。

●胃・十二指腸潰瘍の原因

潰瘍の最大の原因とされているのが、ヘリコバクター・ピロリという細菌です。通常の細菌は酸性に保たれた胃の中では生きていくことはできません。しかし、このピロリ菌という細菌は、胃の中の尿素からアンモニアを作り、胃酸を中和することで強力な胃酸の中でも生きていくことができます。このアンモニアやピロリ菌が作り出す毒素によって胃や十二指腸の粘膜が傷つけられています。

また、解熱、鎮痛、炎症を抑えることなどを目的に使われるNSAID（非ステロイド性抗炎症薬）を服用することによる薬剤性の潰瘍も注目されています。これは、NSAIDを服用することで、粘膜を保護す

る物質であるプロスタグランジンの産生が抑制され、胃・十二指腸粘膜が傷害されてしまいます。

●日常生活で注意すること

直接的な原因とはなりません、ストレスや日常生活習慣も病状を悪化させる要因となります。ストレス下では自律神経の働きが乱れ、胃粘膜などの血流が悪化し、傷つきやすくなります。また、脂肪分の多い食事は、胃酸の分泌を活発にするため、粘膜を傷つける要因となります。さらに、アルコールやカフェインの多いものなども胃酸の分泌を活発にします。胃が痛むとき、あるいは胸やけがするときは、こうした飲食物を控えて、できるだけ胃に負担をかけないようにしましょう。

胃・十二指腸潰瘍の治療は、悪化する内視鏡治療や手術を行うこともありますが、ほとんどの場合は薬と食事療法を組み合わせることで行うことができます。また、胃がんの症状は胃・十二指腸潰瘍の症状と似ていることがあるため、気になる症状が続く場合は、早めに受診をし、内視鏡検査を受けることをお勧めします。

春

は職場や住まいなど環境の変化に加え、食事会の機会なども増えることにより、胃の調子がおかしくなりやすい季節です。中でも上腹部の持続的な痛みや胸やけ、吐き気の症状をきたす場合には、もしかしたら胃潰瘍・十二指腸潰瘍という病気かもしれません。

●胃の中のバランス

胃は、口から食道を通過して入ってきた食物が蓄えられる袋のような臓

器です。ここに送り込まれた食物を消化するために、胃壁から胃液が分泌されます。胃液の主な成分は、消化酵素のペプシノーゲンと強力な酸である胃酸です。この胃酸によって胃の中は常に酸性に保たれています。胃に送り込まれた食物を溶かして柔らかくし、侵入してきた細菌もここで殺菌されます。それほど強力な胃酸ですが、通常、自分の胃壁を傷つけることはありません。それは、胃の粘膜が粘液やアルカリ性の物質、